日　時：１０月２９日（木）
　　１３：００～１３：５０
場　所：２年Ａ組教室
授業者：大前昌士

第２学年Ａ組　社会科学習指導案

（１）単元名　「中部地方」～飛騨の夏秋トマト～

（２）ねらい

自然環境や交通網の整備などが、高山のトマト農業の発展やブランド化を支えていることに気付き、新規就農者を受け入れ、持続可能な産業を目指す飛騨の取り組みについて考える活動を通して、これからの生き方について考察する。

（３）本時における社会科で目指す生徒の姿

・高齢化が進み担い手不足なのに、なぜＩターンしてまで飛騨でトマト農家をするのかという問いに向かって、自然環境や交通網、農家の人々の工夫に着目して考え、持続可能な体制を整えることも産業の発展につながることに気付き、飛騨の産業に向かう姿に良さを感じられる姿

（４）展開（第７時／全８時）

過程	学習活動	研究に関わって
課題設定　社会的な見方考え方を働かせた考察	**○既習内容を確認する。** ・日本の就農者の人口は減っており、担い手不足から高齢化という課題を抱えている。また、災害によるリスクも抱えている。 **○高山市にＩターンしている事実をもとに課題を設定する。** 小瀬さんが移住してまで、飛騨でトマト農家を行っているのはなぜだろう。 （予想）・稼げる条件があるのかな。他の地域より作りやすいからかな。 **【A：自然環境】** （事実） ・高山は平地が少ないけど、扇状地や台地が多く果樹園や畑作にむいている。 ・夏でも涼しい気候、昼夜の寒暖差。 （分析） ・高山はトマトを育てる気候条件にあっているから甘みのある美味しいトマトを出荷できるのだな。 **【B：交通のつながり】** （事実） ・東海北陸自動車道による迅速な輸送が可能になった。 ・４時間を超える輸送をする際は休憩を行わなければいけないルールがあるのだな。 （分析） ・中部地方は大消費地とつながり輸送に有利な土地なんだな。 **【C：農家と地域のつながり】** （事実） ・品種改良を行い、輸送しても高品質で高く売れる。 ・JA の選果場や営農指導員などのサポートがあるから安心して生産できるな。 （分析） ・交通の変化や自然環境に合わせて地域でトマト作りを取り組んでいる仕組みがあるのだな。 小瀬さんが高山に来たのは、自然環境・交通・人々の結びつきが一体となっているからだと思います。 高山の涼しい気候や寒暖差という自然環境が美味しいトマトを育て、高速道路などの交通のつながりによって大消費地へ迅速に届けられる。さらに、品種改良や JA のサポートといった農家と地域のつながりがあったから高山市に来たのだと思います。	【研究内容１―②】 ・既習内容を確認しＩターンの資料を提示する。 【研究内容１―③】 ・ノートに課題解決のための資料から抜き出した事実とそこから考えた自分の分析を矢印でわけて書くようにする。事実からの矢印が増えていくことで、思考の深まりを生徒自身が実感できるようにする。 ・生徒自身に追究方法（・黒板に掲示された資料に集まる・グループで協働的に学ぶ・既習内容とつなげて個別に取り組む）を選択させることで，学ぶ意欲を高め，個別最適な学びを保障する。
認識を深める	**○深めの発問について考える。** 飛騨で新規就農した方を紹介する資料を提示し、就農者の様子から感じたことを話し合う。 ・地域から就農した人は若い人が多い。 ・農業は大変なのに楽しそうに取り組んでいる。 ・単に稼ぐだけでなく、「飛騨トマト」というブランドを自分の手で育てるやりがいや誇りがあるからやりがいあるのかな。 ・飛騨はトマトが育ちやすい環境だから楽しいのかな。 →自然は厳しく挫折する人もいるが、JA の手厚いサポートがあるから初めての農業でも安心して取り組めるのではないか。 →地域で若者を支え、新しい生き方を受け入れる体制が整っているから飛騨では夏秋トマトの生産が盛んになったことが分かった。	【研究内容２―②】 ・資料を読み取りながら、さらに自分なりに疑問をもち、さらに深堀している姿を全体に広める。 ・多くの資料の事実をつなげながら、何がわかったのか、自分なりにキーワードを見つけ出している子を位置付ける。
自己の学びを振り返る	**○本時の授業で学んだことをまとめる。** **視点１「課題解決の視点」** **視点２「飛騨のトマト農家に関する思いの視点」** 【視点１】 若者が飛騨でトマト農家になるのは、高山の涼しい気候と寒暖差（自然環境）を生かし、高速道路や JA の支援（仕組み）を活用することで高品質なトマトが高値で売れる（ビジネスの魅力）から若者が集まっている。一方で、自然相手の苦労や離農の現実もあるが、JA や地域の先輩農家の手厚いサポート体制と、ブランドを育てる誇りがあるから続けていけるのだと思う。 【視点２】 飛騨の人々は、持続可能な地域づくりのためには、環境を生かす工夫だけでなく、自身の稼ぎだけでなく地域で発展しようと受け入れる体制を工夫し、人と人との支え合いを継続的に行い協力して農業を行っていることが分かった。**（多面的に考察して、学習して自分の思いをもつことができている。）**	【研究内容２―①】 ・授業の終末時にまとめを書かせ，分析することで、生徒の知識や認識を把握する。 **【評価規準】** **思考・判断・表現** 若者がなぜ移住してまでトマト農家になるのかを，学習したことからまとめ、さらに厳しい自然環境と向き合い、地域で農家を支え続けていこうとする生き方に注目して書くことができる。 **【評価方法】** ノート記述・発言・行動観察